

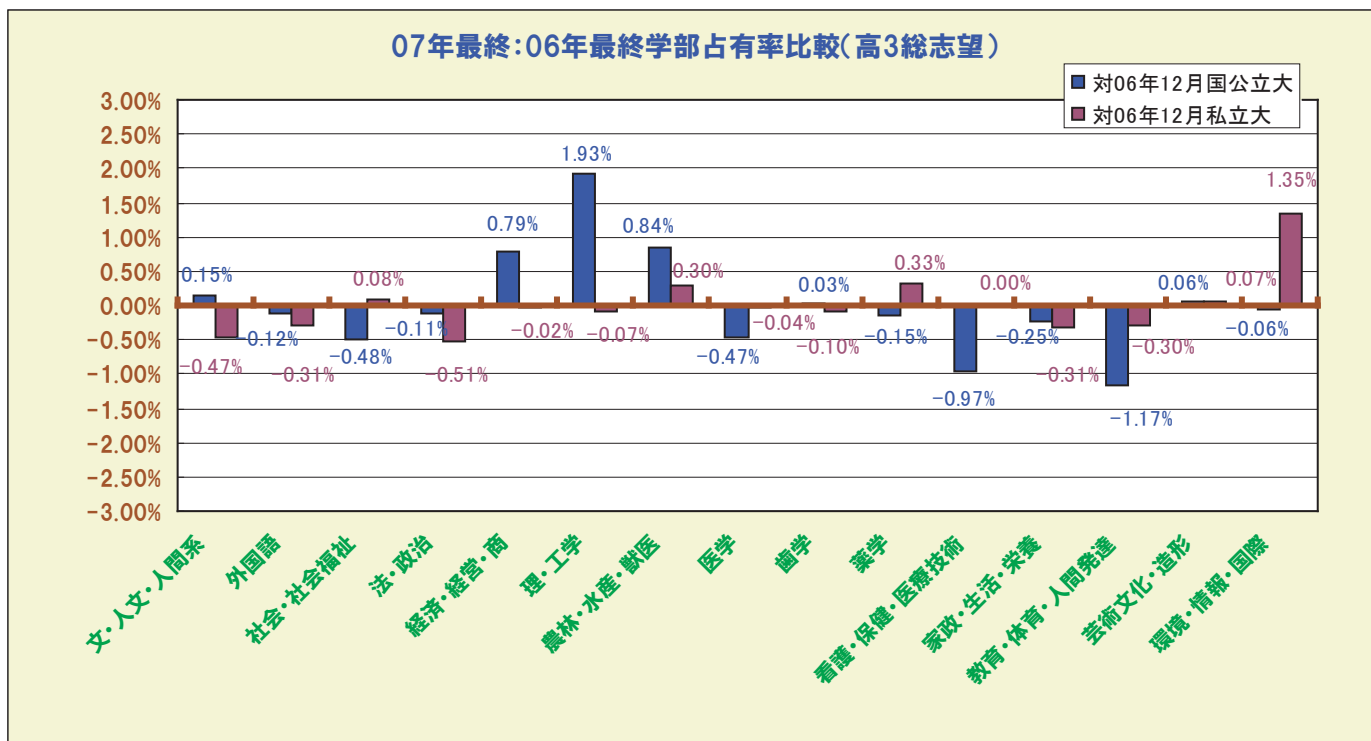
センター最終プレ入試

いよいよセンター試験本番！ 最終チェックを行い、第一志望校合格を目指そう。

2008年1月19日・20日の大学入試センター試験まであとわずか。確定志願者数は543,382人と前年度より9,970人（1.8%）減少しているが、受験は最終的には自分との戦い。1点でも多く得点するための最終チェックと、ベストのコンディションで臨むための体調管理を怠らず、第一志望校合格を目指そう。

以下に示したグラフは、今回と2006年の「センター最終プレ入試」を受験した高3生の学部系統別占有率との比較を設置区分別で表したものである。最終的な動向把握の参考にしてほしい。

【学部系統別占有率昨年比較(設置区分別)】



■国公立大

占有率の増加で注目すべきはまず、理・工学系での人気回復に加速がかかっていることだ。さらに系統を詳細に見ていくと、機械工学や応用化学、金属・材料、建築・土木、航空・宇宙の占有率の伸びが見られ、理・工学系でも特に工学系の人気が高まっていることがわかる。農林・水産・獣医系では農学や農芸化学志望者の増加が要因となり、占有率アップ。経済・経営・商学系は依然として人気が続いている。

減少した系統について見てみると、医学・歯学・薬学・医療看護系は昨年に引き続き志望者が減っている。特に看護・保健・医療技術系での減少率が高い。2007年度入試で志願者を集めた社会・社会福祉系には「ゆり戻し減少」が見られ、教育・体育・人間発達系は人気の低迷に歯止めがかかっていない。

■私立大

大きな特徴として挙げられるのは、環境・情報・国際系の増加と文・人文・人間系および外国語系の減少の相関関係である。国際関係や国際教養の学際系統の占有率がアップする一方で、外国文学や英米語の占有率が大幅にダウンしているためだ。国公立大では減少している薬学系が私立大で0.33%の伸びを示しているのは、何といても慶應義塾大薬学部の志望者によるところが大きく、昨年同時期の共立薬科大の志望者と比較すると160%の増加となっている。また、立命館大に薬学部が新設されることも、増加の要因となっている。法・政治学系では法学の占有率減少の幅が大きい。

受験生の皆さんはすでに志望校を決定し、本番に向けた取り組みに余念がない毎日であろう。是非、万全の体調で入試本番に臨み、実力を出し切ってほしい。また、高1・高2生の皆さんは今回の動向を参考にしつつ、将来や自分の希望を大切に1年後、2年後の受験に向けた学習に取り組んでほしい。